

前回は出発から到着までのことについて書き、学校の様子などを書ききれなかったため、今回はクラスや授業についてと週末にあったことの3つについて紹介します。

クラスについて

クラスはA1, A2, B1, B2, C1の順にレベル分けされており、1クラス15人程度です。クラス分けは、学校が始まる前日にテストがあり、その結果によって決められます。私は、高校のときにフランスに留学していた経験があるため、少しフランス語を知っている自信がありました。しかし、次の日にクラス分けの表を見に行くとA1の一番下のクラスに割り振られており、フランス語をこれから始める人と基礎の基礎からフランス語を学ぶことになりました。授業ではすでに知っていることがほとんどだったため、上のクラスに入れば、と悔しく思いました。しかし、今ではこのクラスから始められてとてもよかったなど感じています。それはなぜかという、フランス語でフランス語を学ぶことに慣れることができたからです。授業では文法の専門的な単語もフランス語で説明されるため、もし、初めからレベルが高いクラスに行っていたら、先生のフランス語での説明が理解できず、不明箇所がクリアにならなかったと思います。今ではB1のクラスまでレベルを上げることができ、はじめの基礎学習のおかげで授業内容をきちんと理解できています。難易度も上がり、授業内容が難しくなっていますが、もっと自分のレベルを上げていけるよう頑張りたいです。



↑この写真は月の終わり（クラス替えの最終日）にみんなでピクニックをしたときの様子。それぞれの国のお菓子などを持ち寄った。右下はイランの伝統的なお米のケーキ。

授業について

授業はだいたい朝9時から始まり、12時に終わります。曜日によって多少変わりますが、

ほとんどの日はお昼までです。火・水曜日は文化の授業があり、取りたい人だけ参加することができます。フランスの歴史、アート、ガストロノミーなど様々なテーマで文化を学ぶことができます。授業を受けていて、日本と大きく違うと感じる点は生徒が受け身ではなく、みんなで授業を作っているという雰囲気です。気になることがあればすぐ質問をしていて、その質問からまた学びが深まっていきます。また、質問というのは、理解できなかったときだけではなく、理解したうえで、「ではこのような場合ではどうなる？」だったり、「前習ったあれとはどう違う？」また、「これも同じ理論だね」と例を出したりします。こういった積極的な発言が飛び交う授業で、私も自主性を伸ばせているような気がします。そして、友人のフランス語の修得スピードにもとても刺激を受けています。彼らとは同じクラスからスタートし、はじめは全然理解していなかったことを知っているため、この2か月の成長には目を疑います。彼らを見ていて気付いたことは学んだことをすぐに使っているということです。そうすることで新しく学んだことをすぐに自分のものにしていきます。また、発表するときは自分の最大限のスキルで、できることを表現しています。日本では与えられた課題に対してそれを満たす内容を作る傾向にあるのに対し、彼らは与えられた課題に対して自分のできることすべて付け加え表現します。それを見てすごいなと感心するとともに私も負けずに頑張りたいと日々感じています。

最後に

クラス替えの初めの月曜日は新しく入る人のテストがあるため、学校がお休みになります。そのため週末との三連休ができ、高校時代の留学で同じクラスだった友人に2年ぶりに会いに行くことができました。



この日は町全体で spectacle(見世物)のフェスティバルがあり、いたるところで劇やショーを見ることができました。フランス語を理解できなくとも面白さや演技のすごさが伝わり、感動しました。また、三つ目の写真は飲み物を買ったときの写真なのですが、見てわかるように使いまわしのプラスチック製のコップでした。コップをお店に返しに行くと少しお金が返ってくる制度になっており、また飲み物を買う際にはお代わりをするように継ぎ足してもらうことができます。このようにフランスには環境配慮など、素敵だなと感じるシステムがたくさんあるので次回はそのことについてももっと紹介できたらいいなと思います。